

音楽系 3 大学による共同プロジェクト
音大連携による教育イノベーション
音楽コミュニケーション・リーダー養成に向けて

神戸女学院大学・昭和音楽大学・東京音楽大学
第 3 回合同トライアル講座 実施報告



楽しい音楽会にするための3つのヒント

2010 年 1 月 13 日(水)18:30~20:00 東京音楽大学 A 館地下 100

3 大学連携による第 3 回合同トライアル講座として、1 月 13 日(水)東京音楽大学において、東京音楽大学教授 大谷康子先生を講師にお招きし、講演「楽しい音楽会にするための 3 つのヒント」を行いました。

講座は大谷先生のヴァイオリンによる「愛の挨拶」の演奏にはじまり、病院コンサートでの患者さんとの触れ合いや、東京交響楽団での活動に基づく体験談などをお聞かせ頂きました。後半では「楽しい音楽会にするためにはどうしたらよいか」というテーマで 3 大学の学生に質問を投げかけ、音楽の本質に迫る大変内容の濃い講義でした。講座の最後には大谷先生が、歩きながら「チャルダッシュ」を演奏して下さり、今回の講座の内容を身を持って体験することができました。講座終了後もインターネット・ビデオ会議システムを使用して、3 大学の学生が自発的な意見交換や交流を行い、大谷先生も交えての貴重な意見交換の場となりました。



大谷康子先生

学生のコメント

- 音楽に形はないが人の心に入ったとき何かを伝えることができる、そのメッセージが心に響きました。(ヴァイオリン/1 年)
- 本質を知らなければ本物の演奏が出来ないというお話がとても印象的でした。デジタル化している世の中で“生(なま)”に触れるという事がなくなっていますが、肌で感じて体験することの大切さを学ぶことが出来ました。(ピアノ/3 年)
- 先生が「音を届ける」という表現をされていたことが心に残っている。演奏する、とか、披露する、という意識で演奏に臨むのではなく、聴衆のことを第一に考えておられる姿勢が大切なのだと思います。(ピアノ/2 年)
- 今まででは勉強になると思い聴講していたが、聴講が楽しいと思ったのは今回がはじめてだった。この雰囲気そのものが、今回のテーマなのかなと思った。(声楽/1 年)
- 演奏者である大谷先生ご自身が、病院や学校へ行って聴かせる事をすごく楽しんでいるのが一番印象に残りました。だからこそ、行った先のお客さんを見て、感動(うれしい、かわいそう)されている。演奏者は聴き手側の気持ちにシンクロするくらいの気持ちを持つ事も一つの手だなあと感じました。(ピアノ/2 年)
- 私自身は教員を目指しているが、子どもたちの前に立って指導する立場になったとしても初心を忘れず、子どもの気持ちになって、音楽の楽しさを伝えたいです。それには私自身が、一番音楽を奏でることを楽しむ、エンターテイナーでなければならないと思いました。(ピアノ/2 年)
- 聴く人がどういう音楽を求めているのか、自分がそれに応えられるか。変化のある人の心に、興味を持ってもらえるようなプログラム作り。この講義を聴いて、改めて音楽の素晴らしさを感じて、先生の言葉で心を動かされるのがたくさんあった。言葉で伝える力、音楽で伝える力は、人柄によるものが大きいということを感じた。(ヴァイオリン/1 年)



- 私は音大に入ってから、音楽を勉強としかとらえられなくなってしまいました。でも昔「この曲が弾きたい!」「あの曲すごく好き」という思いがたくさんあったのです。実技試験や先生へのプレッシャーで楽しむ余裕が無いのですが、もう一度大好きな音楽をさがしてみようと思います。(ピアノ/2 年)

※東京音楽大学の学生のコメントを掲載しています。